



ヨゼフ・アベイヤ司教認可
発行所 福岡教区本部
福岡市中央区浄水通6-28
発行 人
カトリック福岡教区
編集人 下町豊重
TEL 092-522-4059
FAX 092-523-2152
振替口座 01760-6-20729
カトリック福岡教区
定価 一部70円

3月の意向
【福音宣教の意向】和解の秘跡
【日本の教会】東日本大震災被災者
のため
教皇様の意向のために祈りましょう

アベイヤ司教 四旬節メッセージ 「今こそ、心から私に立ち帰れ」 (ヨエル書2章12節)

ヨゼフ・アベイヤ司教は2月11日のルルドの聖母の記念日・世界病者の日に2021年四旬節メッセージを発表した。メッセージは英語、スペイン語、ベトナム語に訳され、福岡教区のホームページに掲載されている。また、灰の水曜日と同メッセージの動画がYouTube教区公式チャンネルで公開された。(視聴方法は4面に掲載)



て、四旬節をどのように過ごすことになるのでしょうか。緊急事態宣言は、県によって解除される日が違います。ある教会では、残念ながら灰の水曜日の典礼を行うことができないかもしれません。四旬節の早いうちに緊急事態宣言が解除されることを期待します。

この「今」は、私たちが自分の弱さを感じ、不安のうちに過ごしているこの時です。多くの人たちがウイルスの感染によって命を奪われ、また多くの人たちが様々な困難に直面しています。こういう時に、苦しんでいる人たちに奉仕する人々の姿は私たちに希望をもたらします。人類の歴史に残るであろうこの時を、どのようにして「恵みの時」として、また「救いに目と心を向けさせる時」として過ごすことができるでしょうか。

灰の水曜日の典礼の中で読まれるみことばからヒントをいただくことにしましょう。まず、預言者ヨエルのこと

「祈り」。普段よりも祈りの時間を作ることで、司祭、修道者、信徒の皆さんに提案します。神様の前で、現実を見つめ直し、こういう現実を通して神様が呼び掛けておられることに耳を傾ける。そして、それと同時に、毎日のみことばをゆつくり読んで味わうことを大事にするように勧めます。教区のホームページに毎日の典礼のみことばを掲載いたします。

主は言われる「今こそ、心から私に立ち帰れ」(ヨエル2・12)
今年は、新型コロナウイルスのパンデミックの中にあつ

こういう状況の中で、灰の水曜日の典礼で朗読されるプリントの教会への手紙にあるパウロのことばを、私たちはどう受けとめればよいでしょうか。

司祭叙階式のご案内

日時：3月20日(土・祝) 11時から
場所：カテドラル大名町教会
受階者：ジョン・ウオンチョル 助祭
司式者：福岡教区長 ヨゼフ・アベイヤ司教

※なお、コロナ禍の中、叙階式は参加者を限定して執り行うこととなります。どうぞご理解ください。また、今後の状況によりましては、叙階式を延期せざるを得なくなることも考えられます。その節は、またお知らせいたします。

※YouTubeでのライブ配信を予定しています。

受階者のためにお祈りください。

東日本大震災から10年

特集記事を3面に掲載

2021年四旬節教皇メッセージ

「今、わたしたちはエルサレムへ上っていく…」
(マタイ20・18)

四旬節—信仰、希望、愛を新たにします

全文がカトリック中央協議会
ホームページに掲載されています。

<https://www.cbcj.catholic.jp/2021/02/15/22109/>



時の話題

東日本大震災10年

東北地方太平洋沖地震発生から10年が経つ。津波が襲来した沿岸地域では、かさ上げや整備が進み様子は大きく変わった。人々の生活の場は内陸へと移った。震災の記憶は薄れていった。いつしか東日本大震災のことが語られなくなつた。震災の記憶は、果たして忘れられているのか。そうではない。眠っているだけなのかもしれない。ふと眠っているものが目を覚まし、刻まれているものが心を揺り動かす一瞬がある。震災で家族を亡くした人、ふるさとを失い、いまだ戻ることができない人がたくさんいる。寄り添い見守って来た人々も、同じように心に刻まれた傷を抱えている。決して消えることのない、目を覚まし続けなくてはならないものを。震災は多くの命を奪った。津波によって失われたもの、原発事故廃炉への長い道程、移り住んだ慣れない土地での生活、新しい人間関係、人々の悲しみにふれるそれらを率直に語るのには難しい。人々は突如激しく揺さぶられ、押し流され、もがきながら耐えながら希望を握りしめて生きてきた。それを受けとめ、感じ

てゆかなければと思う。震災はまだ終わっていない。震災10年、このことばで語られる出来事と向き合っている。東日本大震災を覚えているか。その被害を認識しているか。人々が抱えている言い表せない困難や課題に気づいているか。再生への歩みのなかに、ふるさとを思いながら新しい一歩を踏み出そうとする若い世代の人たちの息づかいを感じる。震災を、これから未来に向かって語ろうとするとき、彼らの新しい考え、瑞々しい表現が浮かび上がることだろう。福岡コレジオ院長 牧山 美好神父

「電話してください」と言いたそうだが、声が出ない。突然、前の席の女性が立って、「電話してあげてください。大丈夫ですから」と夫婦に声を掛けた。すると、「すみません」と言いながら、電話を掛け、「携帯電話を父親の耳元においてくれ」と言いつつ、父親と話そうとした。夫は父親に「ありがとう。お陰でひもじい思いをしなくて済んだよ」と語っていた。また、ある火葬場の出来事。「これより扉をお閉めいたしました。喪主の方、こちらへ」と別のボタンを押すように促す係員。突然、「あなた、お父さんに言うことがあるやろ。謝りなさいよ。心配ばかり掛けてから」と姉が妹を大声で叱責する。妹は泣き崩れながら棺の父に謝った▼「わかまりがあれば、早く和解をしておかねば。和解は神と人に対する自省から始まる。謙虚に神と人に謝ろう。和解は愛の復活である。イエスは神と人との和解のために尊い命をお捧げになり、復活してそれを証された。神と人とは和解によって愛を取り戻したのである。(S)

祈り

「祈り」。普段よりも祈りの時間を作ることで、司祭、修道者、信徒の皆さんに提案します。神様の前で、現実を見つめ直し、こういう現実を通して神様が呼び掛けておられることに耳を傾ける。そして、それと同時に、毎日のみことばをゆつくり読んで味わうことを大事にするように勧めます。教区のホームページに毎日の典礼のみことばを掲載いたします。

施し

「施し」。教皇フランシスコが書いておられます。「日々の人間関係の中でも、助けを求め、兄弟姉妹を前にして、その人を神の摂理からの呼びかけとして受け止めることができたらどんなによいでしょう。

断食

「断食」。断食は、単に「大斎・小斎」を守ることでありませぬ。ここも教皇フランシスコのことばを引用します。「断食は私たちを目覚めさせ、神と隣人にさらに心を向けるよう促し、神に従う意欲を燃え上がらせます。何のために断食するのか改めて考える必要があります。単に規則を守るためではありません。毎日、断食を余儀なくされている人たちの連帯を強め、それに心える行動を呼び起こさない限り、イエスが求めている断食から離れることになりま

祝司祭叙階60・50周年

今年、司祭叙階60周年、50周年を迎える司祭たちに、言葉を寄せていただきました。(25周年該当者はなし)

叙階60周年

平田 敬神父
(福岡教区司祭)

叙階50周年

サトルニノ・オチョア神父
(イエズス会)



お二人の言葉を2面に掲載



若かりし頃のオチョア神父



「電話してください」と言いたそうだが、声が出ない。突然、前の席の女性が立って、「電話してあげてください。大丈夫ですから」と夫婦に声を掛けた。すると、「すみません」と言いながら、電話を掛け、「携帯電話を父親の耳元においてくれ」と言いつつ、父親と話そうとした。夫は父親に「ありがとう。お陰でひもじい思いをしなくて済んだよ」と語っていた。また、ある火葬場の出来事。「これより扉をお閉めいたしました。喪主の方、こちらへ」と別のボタンを押すように促す係員。突然、「あなた、お父さんに言うことがあるやろ。謝りなさいよ。心配ばかり掛けてから」と姉が妹を大声で叱責する。妹は泣き崩れながら棺の父に謝った▼「わかまりがあれば、早く和解をしておかねば。和解は神と人に対する自省から始まる。謙虚に神と人に謝ろう。和解は愛の復活である。イエスは神と人との和解のために尊い命をお捧げになり、復活してそれを証された。神と人とは和解によって愛を取り戻したのである。(S)

祝司祭叙階60・50周年 (1面より)

平田 敬神父

(福岡教区司祭)

今年、司祭に叙階されて60周年を迎える。叙階当時は、日米安保条約締結後で学生運動が盛んであったが、教会の方は封建的であった。翌年からアジオルナメント(編注:「現代化」の意)の名の下に開催された第二バチカン会議(1962年〜65年)を境に、全世界の教会の信仰生活様式が一変し、本質は残るが、皆途方に暮れた。それは、社会と遊離していた教会の刷新が断行されたからであつた。しかも、「開かれた初代教会」をモデルとした宣教共同体作りのためであつた。

私は、この刷新に基づいた「理想の司祭像」を何年も探し続けた。そんなある日、

「開かれた初代教会の宣教共同体の生き方」を表す言葉が「銘」として自分の「カリス(ミサ用聖具)に刻まれていたのに気づかされた。『Cor unum Anima una』(心と魂を一つにして)。この銘が「理想の司祭像」に入れる『新しい魂』になるとは思いつきもしなかつた。

それ以来、初代教会の生き方を赴任先の教会で活かし、キリスト(の超越の神秘)を信仰生活の中心に据え、神の民の一員として、『心と魂を一つにして』お互いに助け合い、補い合いながら宣教共同体作りを手掛けてきた。『キリストのように考え』と口ずさみながら。この間、自分の無力さに気づかされる反面、相手の立場になって『聴き、吸い上げ、活かせる』ように、『考え、判断し、実行

する』大切さも学んだ。これまで皆様方には大変ご迷惑をお掛けしました。こんな私をそっと寄り添い、助け支えてくださり、祈り、励まし、見守ってくださった皆様方に心から感謝いたします。そして、これからもよろしくお願ひいたします。

時第二バチカン公会議後の過渡期で典礼は困難でした。モントリオールで第三修練後再来日し、司牧・高等教育に従事しました。司祭として、兄弟姉妹の喜び・悲しみ・挫折を共感することは時として試練がありましたが、コリントの信徒への手紙(9章19-23節)にあるように大きな犠牲の後には大きな幸せがありますね。フロストの詩「森の中で道が二手に分かれていた。そして私はまだ人が通っていない道を選んだ」。味わい深い一節です。私はこれまで一貫して司祭の道を歩んできました。一つとしてゆるがない私の道理であり信仰の源です。これからも大祭司イエス・キリストと共に司祭道を極めながら皆様の祈りに感謝し、美しく歳を重ねていきたい所存です。

1971年6月26日マドリッドで叙階され今年50周年を迎えます。初聖体後、自分の意志で毎日ミサに与りたい気持ちが生え、18歳でイエズス会に入会しました。1964年来日し、日本語修得後神学を学び始めた1967年以降は日本のみならず諸外国でも大学紛争が多発していた時代です。叙階後はNYコロンビア大学で応用言語学修士課程と同時に司祭の任務を遂行しました。当

狭き門を選んで素晴らしかった。

教皇フランシスコの聖ヨセフに対する尊敬は周知のことです。それを度々自分の言葉と行為によって公に表していました。それにしても、教皇フランシスコの「父のところで」という使徒的書簡を読んで、多くの人が驚きました。しかしながら、この書簡の内容は聖ヨセフについて何か革命的なことを述べているのではありません。カトリック教会の伝統的な教えを伝えるだけです。思いがけないことは教皇の考えです。というのは、聖ヨセフの姿を現代の人々にも見ることが出来るということです。教皇は、救いの歴史と教会の信仰心の中での聖ヨセフを思い起こさせ、彼の役目を今の困難な世界状況に適応させているのです。

教皇はこの使徒的書簡で、聖ヨセフについて昔から知っていることをまとめ、司牧的な考え方の対象としています。今の私たちにもその豊かさを分かち合ってくれています。「コロナウイルス感染のパンデミックが起きてから、この書簡を書く気持ちが強くなった…」とささ告白しています。

社会的な問題に敏感な教皇は、最初からコロナ禍の人たちの悩みに心から共感しています。使徒的書簡では困難と危機に直面しながら立ち向かっている人々に目を向けています。彼らの職業と使命に言及しながら、奉仕、苦勞、犠牲、祈りを強調しています。「他人に希望を与え、パニックではなく、お互いの責任を感じさせ、危機を超える方法を示す」人々を高く評価しています。その人たちの活

【聖ヨセフと共に】

D・アルビン神父(馬渡島教会)



躍に聖ヨセフの姿を見えています。この現代の聖ヨセフたちが、今、公より「後ろに控え、いわば第2列に並んで救いの歴史の中で積極的な役割を果たしている」ことを認めています。難しい事についての専門家と呼ばれる聖ヨセフは、今の困難と取り組み、あらゆる問題を解決するために尽くす人にとってよい手本であるとしています。時代を超えて、聖ヨセフの取り次ぎ、助力、導きも有効なものです。今こそ私たち皆が自分の人間性を豊かにし、お互いに信頼するようということに教皇フランシスコは希望しています。

私たちは今、コロナウイルスの時代に生きています。危険や制限は日常生活や隣人との絆に大きな影響を与えます。この困難さは、私たちの人間関係を見つめ直し、四旬節のテーマとして扱うためにも神が与えてくださったものではないかと感じます。たとえ、黙想会が出来ないとしても、神の呼びかけに個人的に応える機会になるのではないでしょうか。神の恵みによって、自分を人として、兄弟姉妹として、信者として振り返り、隣人、特に身近な人に謙遜に身をかがめてみましょう。そして、この人に、あの人に、見知らぬ人に自分が出来ることを考えてみましょう。聖ヨセフの生き方を思い起こしながら、その保護と導きをお願いするならば、きっと、よい黙想ができるのではないかと思います。

— 聖ヨセフよ、私たちのためにお祈りください —

一方、NPOホームレス支援福岡おにぎりの会では、これまでよりも活動の回数を増やして対応しています。4月から11月までは月に2回、12月から3月3週目までは毎週の炊出し・夜回り。緊急事態宣言下では一般のボランティアの募集は停止し、事務局員やコースリーダー等少人

今村天主堂内での儀式等禁止 (報告 飛永 薫)

2月2日、東京ロヨラハウスにて肺炎のため帰天。享年94。1926年名古屋生まれ。49年にイエズス会入会。60年に東京で司祭叙階。主にイエズス会の中学高等学校で教鞭を取り、84年に福岡修道院副院長に就任。泰星中学高等学校(現上智福岡)で教鞭を取った。

カトリック古賀教会 納骨堂のご案内
カトリック古賀教会内に3年前に建設された、比較的新しい納骨堂です。年に1度、主任司祭による慰霊祭も執り行われております。取得費用は、下記の通りとなります。1区画 ¥300,000(別途、管理料等がかかります)
詳しい資料、見学等のお問い合わせは、下記までお願いいたします。
カトリック古賀教会
住所: 福岡県古賀市花見東2丁目23-1
電話: 092-942-2171

美野島司牧センター「野戦病院」として、活動続く
美野島司牧センターでの活動の様子
数での活動を余儀なくされています。そのほか毎週3日間は事務所において困窮する人々の様々な相談に応じています。
コロナ禍により倒産や解雇など多くの人が厳しい状況に追い込まれようとしています。ホームレス支援活動の現場でも、10月ぐらいから少しずつ新しい人を見るようになってきました。2月に入ってから人数が増えてきました。20代、30代の若い人や女性も目立ちます。一人ひとりの声を聞きながら路上から脱するための支援を続けています。
例年2月と3月に行われる大名町教会ホームレス支援グループ「スーパの会」は中止とされていますが、福岡おにぎりの会に協力という形で司牧センターで活動を続けています。

使徒ヨハネ 草野 純英 神父 (イエズス会)
ミカエル 山崎 聡一郎 神父 (オブレイト会)
1月26日、盲腸ガンのため大阪ガラシア病院にて帰天。享年86。1934年高知県生まれ。福岡小神学校、福岡サン・スルピス大神学院で学び、1964年高知で司祭叙階。叙階後は大阪教区、高松教区内で司牧。また福岡教区内では古賀教会で助任(1969年〜73年)、主任(76年〜88年)を勤め、福岡大神学院で英語を教えた。

奉仕と分かち合い ボランティアグループ SECO の会
【活動内容】フィリピンの貧しい「母子のセンター」援助
【活動日時】毎週水曜日 10時〜16時
【問合せ先】聖心のウルスラ宣教女修道会 Sr. 蔵 092・512・0033
※ 緊急事態宣言下では活動を休止中

別れ・出逢い・旅立ち 草苑 (SOU-EN)
カトリックのご葬儀 互助会制度もご利用できます。
木下株式会社
TEL 092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

吉浦神学生 助祭・司祭候補者認定式 司祭職への確かな一歩

2月23日(火・祝)、イグナチオ吉浦神学生の助祭・司祭候補者認定式ミサが、ヨゼフ・アベイヤ司教の主司式により、出身教会である伊万里教会で執り行われた。佐賀県内では新型コロナウイルスの緊急事態宣言が出されていないので公開ミサが中止されていないものの、3密を避けるために県内小教区から信徒代表者一人ずつなどの入場制限を実施して、司祭9人と家族を含めた信徒・修道者15人ほどの参列によるミサとなった。



認定式を終えて司式者と家族と記念撮影

アベイヤ司教は説教の中で「召命は神から与えられるものですが、それはイエス様と会ったとかマリア様が現れたとかいうものではありません。わたしたちの日常生活の中で、他の人との出会いのうちに与えられるもので、それに敏感に気付くことが大切です。司祭職だけでなく修道者への道や結婚など、人それぞれに様々な召命があります」と語った。この日、東京のカトリック中央協議会から駆け付けた福岡コレジオ前院長・森山信三神父は「コレジオでもいろいろな困難の中で揺らぎながらもここまで頑張り続けてきたのは素晴らしい。現代社会の中で司祭職を目指すのはたいへんなことだが、これからも期待しています」と激励の言葉を贈った。吉浦神学生は福岡カトリック神学院の2年間の哲学科を修了し、今春から4年間の神学科過程を経て助祭叙階、司祭叙階へと進むことになる。

(報告=伊万里教会 吉浦健次)

福岡地区信徒使徒職協議会主催 オンライン聖書講座

テーマ:「マルコ福音書」(B年)

皆さんと一緒にマルコ福音のイエス様を分かち合っています

講師: 寺浜 亮司 神父(福岡教区司祭)

福岡地区信徒使徒職協議会では森山信三神父様指導のもと、聖書講座をシリーズで行ってまいりました。しかし、2020年1月26日の講座を行った後、新型コロナウイルス感染症により3月29日に開かれるはずだった講座は中止となり、さらには担当司祭である森山神父様もカトリック中央協議会へ異動となり、開かれなくなってしまいました。

再開する方法を探して後を受け持つことになった寺浜亮司神父様(湯川教会・管理者)と相談をしましたが、会場として使用してきた大名町教会では安心して使用できる状況にはなかなかならず、諦めざるを得ませんでした。

そのような中、色々な会合がネットを利用したオンラインで行われるようになり、2021年1月中旬にこの方法で行うことで寺浜神父様と準備することになりました。

また北九州地区でもアベイヤ司教様による聖書講座をYouTubeで行うことになり、その会場も湯川教会で行われたことをきっかけに、同じ方法で行うならば可能だ、ということで、1月24日、奇しくも「神のことばの主日」に湯川教会から中継することになりました。また撮影機材や配信の技術面は、直方教会の大塚了平神父様が行ってくださいました。当日の講座内容はYouTubeで「福岡地区聖書講座」または「直方カトリック教会の動画」で検索すると視聴することができます。

オンラインにしたことでネットのことを知らない方は、今までのように会場を訪れて講座を聞くことができないという欠点があります。しかし、オンタイムで100人以上が、また録画の形で後日でも視聴できるので、この原稿を書いている時点で290回ほどの視聴があります。さらにそれぞれの小教区を会場にしての視聴も可能になりました。今後もこの方法で以前と同じように奇数月の第四日曜日を目処に収録を行い、続けていきますので、是非チャンネル登録してお楽しみください。【次回3月28日に開催。詳細は4面のお知らせ参照】

(報告=笹丘教会 島山真理男)

2011年3月11日。東日本大震災の起こった11日を「月命日」と言う。

聖パウロ修道会
ブラザー阿部光一さん

大震災の一週間前、父親の命日祭のために福島に帰っていたブラザーは都合で早めに終えて福岡に。「私も被災するかもしれない」と語る。震災の1ヶ月後の4月11日から「祈ることしかできない」と「震災のための祈りのリレー」



避難誘導中に津波にのまれ、殉職・行方不明となった警察官2人が乗っていたパトカーの前で祈りを捧げる(2013年撮影)

東日本大震災から10年 被災者に心を寄せた歩みが続く

「東京オリンピックの開会式を、仮設住宅のテレビで観る人が一人でもいたら、東京オリンピックは失敗だと、わたしは思います」(「創」2014年6月号)。昨年カトリックの洗礼を受けた作家の柳美里さんは語っていた。

東日本大震災からの復興を謳った五輪だったはずが、コロナパンデミックでいまや「人類がコロナに打ち勝った証」と目的が変化し、そのための準備に右往左往している。あの未曾有の震災は、今、人々の心にどのように残り、感じているだろうか。福岡教区で被災者に寄り添ってきた方々に、震災から10年、今の率直な想いを聞いてみた。

震災のための祈りのリレー



【日時】2021年3月11日(休)

と月に1日、月命日のように祈りを捧げ続けようと思う」

教区内を回って行われているこのリレーに参加した教区民も多いと思う。

また、震災の翌年2012年9月から、釜石ベース(当時)への学生・教職員のボランティア派遣を行ってきた聖マリア学院大学。

田上 朝子さん

「ボランティアリレー」を続けています(現在は新型コロナウイルス感染症の影響で中断中)。九州での暮らしは

民も多いと思う。



そうめん流しに舌鼓

東北の人たちの暮らしにつながっていることを忘れず、これからも学生さんと一緒に東北との関わりが続くことを望んでいます」

そして、福島原発事故の被災者を福岡に招いたグループもいる。

CLC 追立 季治さん

「想えば2013年8月、行橋教会とCLC(クリスマスチャン・ライフ・コミュニティ)は、被災者親子を招き、保養プログラムを行い、10数組の親子が、いやしのさと『なごみの家』に宿泊。そうめん流し・西瓜割り、平尾台巡り、乗馬・子どもたちの川遊び・

「博多にきんしゃい」

目良 信子さん

「10年前の福島の出来事に身も心も震えました。そして何か役に立ちたいと主婦目線ではじめた保養プログラム『博多にきんしゃい』も節目に当たり新たな取り組みを話し合った矢先でした。今私たちは人との触れ合い、寄り添い合う事のできないもどかしさの中にいます。何か追われてきた私たち

大人の温泉保養等々。昨日のことのようだと。そして「天災は時を得て癒されるが、人災・原発汚染は後世が引き継ぐ」と警鐘を鳴らす。

それから、福岡教区災害被災者支援室の中に立ち上げた福島家族支援実行委員会。

2014年から毎年夏に行っている「博多にきんしゃい」は過去6回行われ、(昨年はコロナ禍で中止)多くの司祭、修道者、老若男女の信徒がボランティアで参加したことだろう。

被災者に心を寄せる方々にとっては10年は単なる節目。フランススコ教皇は世界平和の日「平和への道のりとしてのケアの文化」を示した。オンラインピックは「平和の祭典」の存在意義も持つ。平和への道のり。ケアといったわりはずっと息づくこと確信した。

この機会に一度立ち止まり寄り添う事の意味を考えてみたいと思います。そして新たな旅立ちとともに始める。期待と希望を感じています。」と熱く語ってくれた。

に、キリストとの新たな出会いの時間が与えられているように思います。

カテドラルの外階段で集合写真!

☆使徒的書簡 父の心で

2020年12月8日に開かれた使徒的書簡。「沈黙の聖人」とも呼ばれるヨゼフ・コ罗纳禍にあって社会を支える多くの無名の人々を重ね合わせ、「み摂理への信頼をいつまでも第一とし、困難をチャンスに変えることのできたナザレの大王のように創造的な勇気をもてるならば、神は大切なものを必ず救ってください。」とのメッセージを伝える。

カトリック中央協議会発行
税込価格165円

☆愛するアマゾン

アマゾン周辺地域のための特別シノドス後の使徒的勧告。回勅「ラウダート・シ」で繰り返された「あらゆるものはつながっている」というメッセージのもと、アマゾンの民族、文化、経済、自然に関する深刻な脅威を具体的に指摘することで、全人類が受け止めるべき喫緊の課題を示し、預言的役割としての教会の社会的参加の必要性を説く。

カトリック中央協議会発行
税込価格1100円

BOOK 読み専科

不動産全般/売買・賃貸・管理
なんでもお問い合わせください

(株)ジャパン・スマイルか

代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子
〒810-0044福岡市中央区六本松4丁目9番4号
TEL 092-761-8800
http://www.iruka-japan.com/

FPC 福岡プライマリケア訪問看護ステーション

自宅で療養されている方、在宅で看取りたい方、精神障害の方など、病気について、介護方法について専門的指導や援助が必要な方はご相談ください。費用は医療、介護保険でのご利用になります。

春日市天神山7-91 TEL&FAX 092-517-6313
福岡プライマリケア株式会社 代表:エリザベト熊谷

総合建築業

- 一般住宅(新築・改築工事)
- 鉄骨工事
- RC工事

建築の事なら何でもお気軽にご相談ください

有限会社 森山工務店

ヨゼフ 森山 新太郎

福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎(092)811-7265

本との出会い 人との出会い 神との出会い

セント・ポール FUKUOKA

キリスト教書籍・信信用具・ビデオ・DVD・CD
福岡市中央区大名2-7-7 大名町カトリック教会1F
平日/AM10時30分~PM3時
日曜/AM11時~PM2時(定休日水曜・祝日)
TEL 092(741)4588 FAX 092(741)4601
URL:http://www.pauline.or.jp

年間目標 **ともに歩み 支えあっていく共同体**

<聖パウロ女子修道会 福岡修道院閉鎖のお知らせ>
聖パウロ女子修道会福岡修道院は、2021年2月11日に閉鎖いたしました。これまでの皆様のお祈りとご厚情に感謝いたします。

福岡修道院は1949年に設立され、日本における最初の支部修道院でした。ここで、九州各地から多くの召命をいただきました。また、訪問宣教や書院、岩田屋デパートのコーナーでたくさんのかたとの出会いがありました。

修道院は72年の歴史を閉じますが、今後は書院「セントポールFUKUOKA」を通して、福岡教区における宣教に従事し、皆様の必要に即応できるように力を入れてまいりますので、引き続きお祈りとお力添えをお願いいたします。福岡教区のこれからの歩みと皆様の上に、神様の豊かな祝福と導きをお祈り申し上げます。

聖パウロ女子修道会 管区長 Sr.井出昭子

セントポールFUKUOKAは 引き続き開いています。

セントポールFUKUOKAは、協力者スタッフによって続けられます。時々、本部からシスターが訪問して、ともに宣教を果たしていきます。これからも皆様と出会いたいと思っています。

※緊急事態宣言を受けて当面は下記の時間にオープンしています。

オープン時間 平日 10:30～15:00
日曜 11:00～14:00
(定休日 水曜・日曜)
問い合わせ 092-741-4588

第2回 オンライン福岡地区聖書講座

日時 3月28日(日) 14時から ※1時間程度
テーマ マルコ福音書(8年)
講師 寺浜亮司神父
主催 福岡地区信徒使徒職協議会

パソコンやスマホから、どなたでもご視聴できます。また動画が残りますので、後から視聴することもできます。下記のURLから、もしくはQRコードを読み取っていただき、ご視聴ください。



<https://youtu.be/P1XJzd7mwoA>

福岡教区広報室アドレス
<http://fukuoka.catholic.jp>
E-mail: cdf-kouhou@nifty.com



2021 スト・パウルスの日
緊急事態宣言の為
中止の会
14時(問合せ先) ☎092-741-4588

祈りいたします。(C)

編集後記

私事ですが3月末をもって教区報の仕事を退きます。この職を通し、多くの方と出会い、主の慈しみのわざに触れさせて頂きました。心から感謝いたします。読者の皆様の上にも、御父の豊かな祝福をお祈りいたします。(C)

案内板 **会合と催し**

3月のこよみ

2月17日 四旬節愛の献金(四旬節中)
3月5日 性虐待被害者のための祈りと償いの日
3月28日～聖週間

アベイヤ司教 四旬節ビデオメッセージ
アベイヤ司教の四旬節メッセージが動画で視聴できます。
<https://youtu.be/sQq9gKcdhxc>
YouTubeで「カトリック福岡教区」と検索。



真命山諸宗教対話センター - 祈りの集い -

年間テーマ：祈りの実り：イエス様と共に、
イエス様のように生きること
日時：3月11日(木) 10時～15時
内容：十字架を背負っているイエス様に従う(ルカ14:27)
指導者：S. フランコ神父(聖ザベリオ宣教会)
問い合わせ先：真命山諸宗教対話センター
次回：4月8日(木)
神の国でキリストと共に食事の席に着く(ルカ22:30)
☎0968・85・3100 ☎0968・85・3186
熊本県玉名郡和水町蜻蛉浦1391-7・E-mail shinmeizan@gmail.com
☆個人またはグループでの黙想会、研修会も歓迎いたします(要予約)

4日(木) 常任司教委員会
↑E.グリフィン(2014年 手取教会)
5日(金) 性虐待被害者のための祈りと償いの日
7日(日) 四旬節第3主日 今村・本郷教会司牧訪問
↑ミカエル平田寛(2002年 門司教会)
9日(火) ↑W.カリー(2012年 手取教会)
11日(木) ↑L.グリッフィス(2013年 菊池教会)
13日(土) ↑M.ラバルタ(2015年 天神町教会)
14日(日) 四旬節第4主日 二日市教会司牧訪問
17日(水) 日本の信徒発見の聖母(長崎の信徒発見記念日)
19日(金) 聖ヨセフ ↑ヨゼフ牧山田一(2018年)
20日(土) ジョン助祭 司祭叙階式
21日(日) 四旬節第5主日 健軍教会堅信式
25日(木) 神のお告げ
27日(土) ↑L.ペーカー(2019年)
28日(日) 受難の主日(枝の主日) 大牟田教会司牧訪問
30日(火) ↑V.チェリツァ(2005年 唐津教会)
31日(水) 聖香油ミサ
(宗法)幼稚園新任教職員辞令交付式・研修会
【4月】
1日(木) 聖木曜日(主の晩さんの夕べのミサ)
↑J.クレハン(2008年 荒尾教会)
2日(金) 聖金曜日(主のご受難の祭儀)(大斎・小斎)
聖地のための献金
3日(土) ↑A.アレグリーニ(2006年 ロザリオの園)
聖土曜日 復活徹夜祭ミサ(大名町教会)
4日(日) 復活の主日
↑ペトロ黒川博(2002年 大牟田教会)
↑V.ヤンキャンプ(2019年)
■ゴチックは司教日程

集いの案内 について

掲載依頼のあった集いのみ、掲載しております。感染症の状況によっては開催が中止となる場合があります。

福岡

福岡召命を共に祈る会
3月16日(火) 13時半
から(場所)大名町教会(内容)ロザリオと話し合い(問合せ先)☎092-741-4588

熊本

マルコ福音の物語
3月2日(火)、16日(火)、30日(火) 朝の部10時から、夜の部19時から(場所)手取教会・信徒ホール※三密を避ける対策実施(講師)レナト神父(教区養成・聖書担当)(内容)マルコ福音書は、イエスの教えが弟子たちをどのように導いたのかを描かれています。私たちもイエスの弟子として、福音の旅に出てみませんか。ナレーションに巻き込まれて生きるためのヒントを発見しませんか。(問合せ先)☎096-352-3030 手取教会



「核兵器禁止条約」が、2021年1月22日に発効された。フランスコ教皇は発効に先立ち、「この条約は、短時間で多くの人々を襲い、長期にわたって環境を破壊する核兵器を明示的に禁止する初めての法的拘束力のある国際的な手段だ」とその意義を強調。「すべての国と市民が核兵器のない世界に向けて決意をもって取り組むことを呼びかける」とパチカンで声明を発表した。

しかし、22日現在、批准を済ませた国と地域は51、条約に加わる意思を示した署名は86で、いずれも核兵器を保有していない。被爆地、広島と長崎の高見三明大司教は、すべての国の参加を実現するために乗り越えなければならない大きな壁として、核保有国と、日本を含む、いわゆる核の傘の下にある国々の根強い抑止論を上げ、「わたしたちは、被爆地のカトリック司教および日本国民として、教皇フランシスコとともに、『すべてのいのちを守るため』、核兵器のない世界が可能であり必要であるという確信をもって、核兵器保有国も非保有国も含めてすべての人が一致して核兵器のない世界の実現のために参加する必要がある、と訴えます。そして、核兵器禁止条約の批准国が世界の大勢を占め、核保有国も批准をし、同条約が完全に実施されるよう神に祈り、そのために働きかける決意を新たにします」と2021年1月22日共同声明を出した。

被爆 75 年から 5 年間のチャレンジ
— ワンコインで連帯 —

この両司教が運営委員として参加している「核なき世界基金」は
1: 「核兵器禁止条約」の批准拡大を後押しする活動の支援
2: 世界の核兵器由来の放射能被害者の支援と放射能汚染からの環境回復の支援
3: 核兵器廃棄を目指す活動の支援
をおもな目的に支援金を募っている。
(詳細「核なき世界基金」のホームページ (nuclear-free.net) 参照)
教皇は2019年の来日時、被爆地の長崎と広島を訪れ「核兵器は使うことも持つことも倫理に反する」などと述べて核兵器の廃絶を強く訴え、具体的な行動をとるよう求めていた。
唯一の戦争被爆国として、私たちに出来ることを考えたい。

人と人の絆を大切に、ご葬儀のご相談は
メモリーホール
業院・油山・野芥・小田部・今宿
馬出・南福岡・大野城・飯塚
市民葬儀・法事相談センター
六本松店・赤坂店 **福岡メモリーホール**
0120-45-1616

社会医療法人 雪の聖母会
聖マリア病院
〒830-8543 福岡県久留米市津福本町422
TEL.0942(35)3322 FAX.0942(34)3115
聖マリアヘルスケアセンター
〒830-0047 福岡県久留米市津福本町448番5
TEL.0942(35)5522 FAX.0942(34)3306
信仰や理念を共有できる医師、看護師の皆さん
と一緒に働いてみませんか
URL: <http://www.st-mary-med.or.jp/>

福岡教区セクハラ対応窓口
セクハラを受けたら、見かけたら、ご相談ください。ひとりで悩まず、早めに相談
セクシュアル・ハラスメント相談窓口
電話 080-2694-4182
受付時間 月～金(祝日を除く)
10:00～12:00 13:00～16:00

キリスト教書籍・用品
お買い物は365日、24時間 いつでもどうぞ!
<http://www.paulus.jp>
パウルスショップ
メディアによる福音宣教のために...
サンパウロ福岡宣教センター
10:00～18:00(月～土) / 日・祝日休業 / 地下鉄赤坂駅より徒歩3分*駐車場完備
〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-14-26 ☎092-721-2032 fax.739-3930